**能田 多代子 （のうだ・たよこ）**

**１、プロフィール**

民俗学者。出身地である五戸地方を中心に、方言研究、民俗研究を続けた。

＜生没＞

1890（明治23）年１月31日～1969（昭和44）年６月12日

＜代表作＞

『五戸の方言』『村の女性』『手っきり姉さま』『青森県五戸語彙』『能田多代子著作集』

＜青森との関わり＞

三戸郡五戸町生まれ。大正２年に上京。五戸地方の方言を中心に民俗研究の基礎を固めた。

**２、作家解説**

明治23年１月、三浦道太郎、すえの長女として五戸町に生まれる。家は造り酒屋を営んでいた。五戸小学校卒業後、同校で代用教員を務めた。大正２年弟一雄が仙台の二高に入学したのを機に、上京する。大正９年から鳥谷部陽太郎の「兄弟通信」の発行を手伝う。編集担当であった能田太郎と知り合い結婚。

　昭和4年には能田の郷里熊本県南関町に移り、南関の方言を採集、方言集を刊行した。昭和11年能田と死別後は、柳田国男の指導のもと、本格的に民俗学研究の道に入る。方言を採集し、記録してまとめるという地道な作業を続ける。

　昭和13年に『五戸の方言－用言から出発して』を国学院大学方言研究会から刊行。18年『村の女性』（三国書房） 33年『手っきり姉さま』（未来社） 38年私家版『五戸語彙』など南部地方の民俗研究を重ね、42年には『能田多代子著作集』（津軽書房）としてまとめている。36年に県褒賞、42年に東奥賞を受賞。昭和44年６月12日、老衰のため死去。享年79。夫とともに収集した民俗関係蔵書五千点は「能田文庫」として県立図書館に収められている。

**３、資料紹介**

〇『青森県五戸語彙』

図書

1963（昭和38）年２月１日

196㎜×135㎜

昭和13年に出版した『五戸の方言－用言から出発して－』に体言篇を加え、改訂したもの。名詞、動詞、形容詞などを文法的に分類、五十音順に配列している。方言によって生活事実と感情を明らかにしている。昭和57年復刻版として『青森県五戸方言集』が出版された。